

佐久で塩川高敏展を開催（9月13日から）

上原 昇（2組）

同期の洋画家、塩川高敏君（8組、佐久市出身、東京藝大卒）が亡くなったのは2017年11月のことでした。その年の5月には所属していた国画会の国展（国立新美術館）に、8月には日本橋高島屋でのグループ「個の地平」展に出品と活躍中での急逝は何とも残念でした。

塩川君は2000年から亡くなるまでの17年間、尾道市立大学に在籍して、2011年からは副学長の要職を務めていました。

このたび、佐久市立近代美術館（佐久市駒場公園内）で、「佐久地域ゆかりの作家 塩川高敏展」が開催されることが決定しました。

故郷に錦を飾る形となった催しを、天国の塩川君も喜んでいることでしょう。

開催期間は、9月13日（土）から11月3日（月・祝）までです。

本展の企画を担当したのは、同館学芸員の由井はる奈さんです。

昨秋、由井さんから65期HPを通じ、管理者の原田義則君（3組）に協力要請があり、高校時代に塩川君と美術班で一緒だった澤崎健一君（3組）をはじめ、関係者が由井さんの取材を受けていました。

そこで、以下は原田君と澤崎君のコメントです。

原田 「2024年10月4日に突然65期HPの『問い合わせ』欄経由で佐久市立近代美術館の由井学芸員から『塩川氏の回顧展を企画しているので、高校時代の様子や思い出などを取材させて戴ける同級生やご友人をご紹介して欲しい。』との連絡がありました。上原君経由で澤崎君に繋げ、ヒアリングに至りました。塩川君の奥様が上田高校の同期生との交流もあった事を思いだしてくれ、由井氏が検索した結果65期のHPに辿り着いたようで、情報公開の有用性を再確認しました。私は、亡くなる直前に開催された日本橋高島屋でのグループ「個の地平」展会場で塩川君と会話し、数作品を鑑賞したのですが、今度は纏めて彼の作品を観れるようなので楽しみです。」

澤崎 「私が電話取材を受けたのは昨年11月、塩川君との出会いから美術班時代を中心に話しました。この時、大いに役立ったのが、旧校舎の美術教室／松尾祭での美術班の展示・集合写真／卒業写真などを収録した65期HP内のアルバムです。

お互いにPC画面を見ながらのやりとりは、由井さんをすっかり上田高校ファンにするほどの盛り上がりで、1時間半にもおよぶ電話となりました。

塩川君の高校時代の制作環境や美術班の仲間たちなど、当時の模様がリアルに伝わり、彼女も良い取材ができたと言っていました。



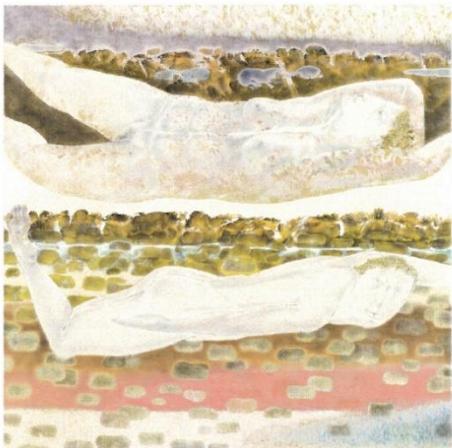
塩川 高敏

今回の回顧展で、この時代がどういうカタチで展示されるか・・・
私も楽しみにしています。

“永遠の絵画少年”塩川高敏展、みんなで観に行きましょう!!」

展覧会は、まだ半年先のことですが、折角の機会ですから、鑑賞
会を企画して、同期有志で同展を観に行きたいと思います。

詳細については後日お知らせします。



塩川高敏 浮遊-17



162×324cm

第91回 国展(2017)

写真は 2011 年 1 月開催の「KAOS 展」パンフより

4 ページに塩川君の記事が載っている佐久市立近代美術館の「美術館ニュース no.4」は
こちらをクリック。

<https://ueda65ki.sakura.ne.jp/NEWS/美術館ニュース no.4.pdf>

以上

(2015 年 3 月 24 日記)